

社会に開かれた学びカンファレンス

群馬の教育の未来について考えるために、140人が集う！ 「社会に開かれた学びカンファレンス」開催



2019年6月22日の土曜日、群馬県高崎市において「社会に開かれた学びカンファレンス」を開催。当日は、約140名に及ぶ方々とともに「**群馬の教育の未来**」について考えていく5時間となりました。

来る2022年、高等学校においては、いよいよ新たな学習指導要領が本格的にスタートし、明治以来戦後最大の教育改革とも時代の節目。その学習指導要領の理念に掲げられた「**社会に開かれた教育課程**」。

当日は群馬の教育を牽引されているゲスト3名のパネルトークを皮切りに、教員・民間・NPO・行政等のお立場で日々教育・学びに向き合う方々を起点とし、立場を越えて参加者全員で“探究”を行いました。

群馬の教育の未来が少し見えるかもしれない本レポートを、手に取って、ぜひお読みください。



“開かれた学び”によって、未来は拓ける。

主催者を代表してNPO法人DNA代表 沼田翔二郎の挨拶から始まった本カンファレンス。

「2人に1人は『自分に価値がない』という高校生の現状。私たちはそんな群馬の10代の学びと成長を支える地域社会を目指すために7,500名ほどの中高生と出会ってきました。

彼らの教育環境を、どうよりよくできるのか？について、本日はお互いの考えを開くことで生まれる様々な学びから、群馬の教育の未来について見つめていきましょう」

さあ、カンファレンスにおいてどんな学びが生み出されるのでしょうか？

【開催概要】

- 名 称 | 社会に開かれた学びカンファレンス
これからの教育の未来を、8つのテーマから探究する
※8つのテーマと表記しましたが、参加申込の状況により6つに変更いたしました。
- 日 時 | 2019年6月22日(土) 13:00 - 17:30
- 会 場 | 高崎経済大学 / 群馬県高崎市内上並棟1300
- 流 れ | 13:00-13:20 オープニング・チェックイン
13:20-14:30 第1部 パネルトークセッション
14:30-16:05 第2部 探究セッション
16:30-17:15 第3部 ダイアログセッション
17:15-17:30 クロージング

- 参加者 | 計140名 高校生10名 学生30名 教育関係者40名 民間・NPO60名
- 後 援 | 群馬県教育委員会、高崎市教育委員会、富岡市教育委員会、桐生市教育委員会、太田市教育委員会、
上毛新聞社、朝日新聞社前橋総局、毎日新聞前橋支局、東京新聞前橋支局、
読売新聞前橋支局、産経新聞前橋支局、時事通信社前橋支局、
群馬テレビ、FM GUNMA、ラジオ高崎、朝日ぐんま、
日本地域政策学会、群馬中小企業家同友会、
キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会
- 協 力 | NPO法人あかぎの森のようちえん、NPO法人ターサエデュケーション、
NPO法人キッズバレイ
- 主 催 | 特定非営利活動法人Design Net-works Association (DNA)





第1部は「これからの教育の未来は、何を目指していくのか？」と題したパネルトーク。群馬の教育を牽引されているお三方から、“高大接続改革”を前提にしながら、大学教育・高校教育の改革について話を伺いました。



大宮登氏 [高崎経済大学 名誉教授]

大学は「学びの質」を保証できるか？大学生活で学ぶ意味－。

1990年頃から日本の大学教育が変わり始め、2000年代に入ってから本格的に変わってきました。その課題意識は「大学進学率が5割を超え、みんなが大学に行く時代だとしたら、“大学に行くこと自体”に意味は無い」ということです。

学生自身が「大学に行って何をしたのか、何を勝ち取ったのか、何を学び取ったのか」という“学びの質保証”を問う。大学教育が変わらなければ、高校教育も変わらない。

高崎経済大学では日本で最初の“地域政策学部”を創り、学生の主体的な学びを確立できるように、地域連携事業や能動的学修等の大学教育の質的転換が行われたのです。

「大学にはできないことがたくさんある」という覚悟－。変わる大学教育。

15年かけて大学教育の改革に取り組んできましたが、そこには「大学にはできないことがたくさんある」という覚悟がありました。だからこそ、地域社会に大学を開いてきました。地域のみなさんにも学生たちが幸せな人生を歩むための学びや成長を支えていってほしいのです。

「地域の未来は私がつくる。」というビジョンを共有しながら、学生自身が理論と実践を行き来し、失敗と成功も行き来するために、学外では地域と一体となり学生を育て、学内では教職員が一体となり大学を創ってきました。

そしてこの大学教育の改革は、高校教育の改革につながると考えています。“高大接続改革”は単に入学試験の改革のことを指すものではありません。“学びの接続”なのです。



大森昭生氏 [共愛学園前橋国際大学 学長]

何を目指していくのか？」



丸橋覚氏 [群馬県立高崎北高等学校 校長]

2030年を見据えて「未来を拓く人」を育てる高校へー。公立高校の挑戦。

生徒が社会で活躍していく2030年を見据えてみると、高校生として身につけておく力は、主体性や探究心等であることを、教職員全員で考えました。

その力を身につけていけるため、授業では生徒自身が主体的に参加できるように、ペア学習やICT環境を整えて行いながら、自ら学びを創り出せるようにと、先生方がチャレンジしています。

「未来を拓く人」を育てる高崎北高等学校として、3年間を見通した探究型キャリア教育も含めて、公立高校で取り組んでいる最中です。

これからの教育の未来を担う

私たち教員・大人に大切だと思うことは？」

大宮先生
コメント

- ①自分自身の成長、チャレンジしている姿を。
- ②学生に向き合う存在として。対話・対決・対峙。
- ③意識的に、そのような場づくりを。

大森先生
コメント

- ①「教えない勇気と、待つ忍耐」成長のチャンスを。
- ②われわれ自身が、社会と接続できているかどうか。

丸橋先生
コメント

- ①生徒が、社会でどのように過ごしていけるのかを
想像しながら、生徒に関わる。
- ②「学びを、先生から生徒に返すこと」



■「高大接続改革」って？

2012年、中央教育審議会諮問で①大学教育、②大学入学者選抜、③高校教育の三位一体改革として示された。

■「社会に開かれた教育課程」って？

“未来の創り手”となる生徒に必要な資質・能力を、学校と社会が共有し、その実現のために協力する考え方。

2020年度から本格スタートとなる学習指導要領に理念として掲げられた。 ※小学校2020年度、中学校2021年度、高校2022年度より

これからの教育・学びの未来を見据えて、 先生方のチャレンジは？」

【丸橋先生】

いま、まさに私自身が探究しています。どのような学校を創っていけるのか？今夏も教員同士で学び合う合宿に参加して、今何が必要なのかを考えています。

【大森先生】

「学習成果の可視化」に挑戦したいですね。 学生自身が自らの学びを、自ら言語化して、その学びに意味を与えられるように。社会に飛び出しても自律的に学んでいけるように。また、進路選択においては多様な選択ができる環境を整えたい。そのためのオルタナティブに本学がなと思っています。

【大宮先生】

これまで行ってきたことを“つなぐこと”。また個人的には「豊かに“老い”を生きる」 それに挑戦しています。これは私の専門である「ライフキャリア」とも深く関連しています。そのために死ぬまで学び続け、最期まで楽しんでいきたいです。



教育・学びの未来は、どうなっていくのか？」

自らが学び取ること。
いかにその場や機会を創れるか。

「学びの未来はわからない」。それは社会が予測困難だから。

でも「幸せな生涯のために、一緒に学ぶんだ」というところはブレない。これからの社会がどうなっていくのか？を捉えながら、じゃあ何ができるかと考え続ける必要がある。

「相互成長」がポイント。先生も学び、生徒も学ぶ。
関わる大人も学ぶ。お互いに学び合う。

「これからの教育の未来を、



第2部は「これからの教育の未来を、6つのテーマから探究する」と題した探究セッション。参加者全員が6つのテーマに分かれて、ともに考え、ともに学び合う時間を過ごしました。一人では考えきれない発想やアイデアに至る時間を楽しみながら、それぞれの日常につながる学びを手にしていきます。



岡本氏 [同左]

中村氏
[高崎北高等学校]

高校生・保護者・教員、みんなで語る！未来の高校教育とは？

「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラムマネジメント」「社会に開かれた教育課程」の三つの視点から、授業改革や探究活動の事例を紹介・共有し、多くのご意見を頂く形で進めさせていただきました。

立場を超えた対話によって、普段見えてこない発見と学びを得ることができました。現状とこれから進むべき高校教育を語り合い、今後それらの学びを自身の持ち場で共有することで、「教員」としての仕事の質を、「教員」仲間と高めつつ、「教員」という立場外からも教育環境の改善に力を尽くしていきます。

子どもたちが前向きな未来を思い描くために、地域の大人ができることってなんだろう？

自分の問いについてみなさんと共に考えることができ、「一緒に考えたい」という思いを持っている人がこんなにもいるんだと実感し、幸せな気持ちになりました。

みなさんと話をした中で多くあがったのは、地域の中での「居場所」の必要性。地域に暮らす私たちが、安心して心を開くことができる「場」を、私もつくりたいと思っています。「場づくり」の方法を学び、実践につなげていきたいです。

今度みなさんとお会する際には、お互いの「学び」について報告し合いましょう！



河原氏 [富岡市役所職員]

学校以外の“学びの選択肢”？子どもが安心して学べるフリースクールの可能性とは？

今後のフリースクールのあり方について改めて考えるきっかけになりました。

今まで私たちが取り組んでいることを肯定する意見が多く出たことは私たちの活動の自信にもつながり、徐々に課題意識が浸透していることを実感しました。

今後は社会の1歩先を考え、半歩先に行くことを意識しながら、フリースクールを利用する子どもたちが価値ある時間を過ごすことができる仕組みやプログラム構築などを、子どもたちに関わる人である関係人口を増加させながら、探究していきたいと思っています。



市村氏 [NPO法人ターサ・エデュケーション]

6つのテーマから探究する」



探究セッションは、ホスト（担当）となる方が日々感じていることや学んでいることを「問い」にして行いました。高校教育において「探究学習」の必要性が問われている中、大人自身も学んでいくための時間となりました。時に高校生も交じり、様々な観点から思いがけない学びの数々が生み出されていきました。



浅岡氏 [元教員、教育系会社勤務]

教育の力を最大化するために！これからの学校と地域・企業・大学の連携の形とは？

老いも若いも誰しものが、地域の高校生の学びに関わり、成長の機会を与えていくということが身近で当たり前の考えとなり、その考えのもとに行動できる場づくりをしていく必要性を改めて感じました。

今回のセッションでは学校図書館をデザインし直すというアイデアが生まれましたが、決して大げさなこととしてではなく、もっと当たり前のこととして、フランクに、『学び』を共通項とした地域の大人と子供が関わる場づくりについて周りの人と話をしていきたいと思いました。

人生100年時代における「学び続ける力」の大切さと、育むための私たち大人の役割とは？

主体性とは？という根源的な問いを参加者の方々がお互いに問うているのがすごく印象的でした。自らが目の前の物を所与のものとして受け止めるのではなく問い続けることが主体性育成の大事な観点なのだという事を参加者の皆様から学びました。

また、各テーブルで「見守る」というキーワードが共通ででたことが学びでした。任せる勇気を大人が持てるかどうか、その上でほったらかしにするのではなく見守る。

主体性育成において新たな学びでした。今後は、いろんな業界・業種・立場の人が集まる学びあうコミュニティを作りたいと考えています！



森田氏 [リクルート北関東マーケティング]

瀧本氏 [同左]

ともに悩もう、ともに語ろう！将来や人間関係で『困った』と

感じている子に対して、私たちができることは？

思春期を生きる高校生は、放っておけば常に自分を卑下し、自信を無くし続けてしまいがちであること。そんな高校生に、教員、親を含む周りの大人が、大きさも場所も違う「多重の受け皿」の感覚で、それぞれのテリトリーで構えつつ、情報共有しながら支えていく。

そういった「個人の個性が生きる組織」としての関わり方を学びました。学校の中で、教員それぞれの長所を生かした関わり方が生徒の励みにつながることを目指して、生徒への支援体勢を充実させていきます。



阿部氏
[桐生西高等学校]

「参加者全員による教育・学びの

第3部は参加者全員が対話を通じて振り返るダイアログセッション。

これまでの学びを振り返りながら、どんなことを考え、どんなことを日常につなげていきたいか？について深め合いました。

そして、①あなたにとって学びとは？②目指したい教育・学びの未来は？

③未来に向けてのアクションは？について言葉にし合い、終わりを迎えました。



社会に開かれた学びカンファレンス

あなたにとって“学び”とは？

① 自分にとっての“学び”とは？
→ 豊かな日々を過ごすための
気遣いと動機づけ

② 目指したい教育・学びの未来
→ 尊重した、夢がこぼれた
時に、次の夢を描ける環境

③ アクション
→ 人生の先輩の方々に
伝えてゆくと。 DNA

社会に開かれた学びカンファレンス

あなたにとって“学び”とは？

安心感をもって、楽しんで
続けられるもの。
「生涯
子供達と、学校独自の息音にから
開放したい。
まず、学問的な面から教育とする。
→ 実践、海外の教育に学ぶ
→ 新しいスタイルの開かれた
教育を作る。 DNA

社会に開かれた学びカンファレンス

あなたにとって“学び”とは？

人を育つ大元。成長そのもの。

ゆたかに、目指したい、教育・学びの未来は？
地域或の誰もが主人公になって、その考えや
生き方を尊重に暮らせる社会。個人の能
力や才能を活かす。

未来に向けてのアクション
寺小屋、フリースクールを合わせた様子、
小共食堂 場作り。更なる勉強。 共育 DNA

社会に開かれた学びカンファレンス

あなたにとって“学び”とは？

学び 考えがかならないように
アクション 教育・学びを
実践できる大人に
なる
目指したい教育・学びの未来 DNA

社会に開かれた学びカンファレンス

あなたにとって“学び”とは？

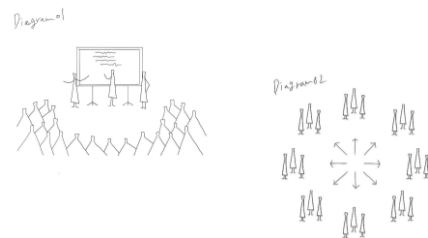
生活必需品。品？
誰もが必需品として
携帯してほしい。
毎日のつみかさねで。 DNA

社会に開かれた学びカンファレンス

あなたにとって“学び”とは？

好奇心をもって自らの欠けを
広げ、深めるだけでなく、
周囲や社会へ還元させていく
こと。
目指したい教育・学びの未来は
立場に関係なくお互いを1人の
人間として尊重しあい、自分も大いに
輝ける場づくり！
とうわけて、私は人間的に、くっ
り目を負けたら役割を
にないたいです。 DNA

未来について探究する」



社会に開かれた学びカンファレンス

あなたにとって“学び”とは？

- ◎ 自分の想いと他者の想いを
かけあわせて、新しい一歩を
踏み出すこと。
- ・ 目指したい教育・学びの未来
- ◎ 今ある形態・組織があつた前と
なく多様なあり方を肯定できる 未来
- ・ それに向けての アクション
- ◎ 同じ想いを持つ仲間をまずは
1人つくる

DNA

社会に開かれた学びカンファレンス

あなたにとって“学び”とは？

学び合い

学生も教師も
経営者も保護者
も地域の人も
互いをリスペクトして
学び合う場作り

DNA

社会に開かれた学びカンファレンス

あなたにとって“学び”とは？

- 。変化・成長・行動の
エンジン (ガソリン?)
- 。教師・生徒・保護者・地域、
大人が教壇に立ちあう
探究型授業の
ある高校
⇒ 教師と対話する場(7/8)で
上も提案する。

DNA

社会に開かれた学びカンファレンス

あなたにとって“学び”とは？

生きている実感！
誰かのためになる力

未来は明るい 多様な学び

アクション
自分が動く。→ 協働者

DNA

社会に開かれた学びカンファレンス

あなたにとって“学び”とは？

一生もの
エンパワ-メント

学びの場、
いろいろな
学びの提供

職場で・今日の
ことを伝える

DNA

これからの群馬の教育の未来、
どうなっていくのでしょうか？

「子どもたち」を真ん中に、
彼ら・彼女らが前向きに、豊かに、
人生を歩めるように

そのためには私たち大人が
立場を越えて、
ともに考え、ともに学ぶ。

今日もまたどこかで
開かれた学びが生まれています。

社会に開かれた学びカンファレンス

【メディア掲載①】

- 6/22 (土) これからの教育の未来を考えよう
「社会に開かれた学びカンファレンス」
https://greenz.jp/event/manabiconference_20190622/
(ウェブマガジン「greenz.jp」より)
- 県内高校に広がる「未来の教室」／
自分の求める人生を知る対話プログラム
<http://imakoko-gunma.com/dna-mirainokyoshitsu/>
(いまここより)
- センパイとの出会いが、行動を変える勇気を与える
<http://www.gunmaai.jp/network/italk/data/008/>
(1トークより)
- 『社会に開かれた学び』をつくる 暮らしと繋がる
“教育”の未来 【NPO法人DNA×高崎北高校】
前編) <https://takasaki-life.com/learn/2265/>
後編) <https://takasaki-life.com/learn/2277/>

【メディア掲載②】

教育の未来を考えよう

高経大でパネルトークや分科会

教育の未来について語り合う「社会に開かれた学びカンファレンス」が22日、高崎市の高崎経済大で開かれた。高校生から社会人まで約130人が、専門家のパネルトークや分科会を通して今後の教育に必要なことを考えた。

パネルトークは同大の大宮登名教授、共愛学園前橋国際大の大森昭生学長、高崎北高の丸橋寛校長が登場。写真。教育改革の流れや主体性が叫ばれるようになった背景、地域と連携した人材育成の重要性などを説明した。

教員や大人に求められる



「学校と地域・企業・大学の連携の形とは」など6つのテーマごとに高校教諭や自治体職員、社会人がホスト役を務めて参加者と意見を交わした。

県内の高校など連携して教育事業を展開するNPO法人DNAが創業15周年を記念して主催した。

分科会では「学校と地域・企業・大学の連携の形とは」など6つのテーマごとに高校教諭や自治体職員、社会人がホスト役を務めて参加者と意見を交わした。

県内の高校など連携して教育事業を展開するNPO法人DNAが創業15周年を記念して主催した。

2019年6月24日(月) 上毛新聞

【チラシ・ポスター】

Design by バッタさん



社会に開かれた学びカンファレンス

これからの教育の未来を、8つのテーマから探究する



本カンファレンス開催にあたり、そしてこれまで活動を支えて下さったみなさまに感謝を込めて。

【開催メッセージ】

社会とつながりながら多様な人々との対話を通じて学ぶこと、安心してチャレンジできる日常を手に入れること、「この学びは、自分で深めたんだ」と思える実感をもつこと。

10代の中高生が、群馬の至るところで、社会とのつながりを手にしながら豊かに学んでいける地域社会を目指して。

DNAは「子ども・若者と、社会をつなぐこと」をミッションに、学校の授業を通じた教育活動を、群馬の中高生に届けてきました。そんな中で、様々な想いや考えを抱き、様々な環境に属し、日々揺れ動きながら10代を過ごしている中高生に出会ってきました。

目的を持って部活動に一生懸命に過ごしている子も、挫折ばかりの過去を引きずっている子も。

将来に向けて前向きに取り組んでいる子も、家族と上手くいかずに辛い想いをしている子も。

友だちと切磋琢磨しながら過ごしている子も、ちょっと社会をナメから見て楽しんでいる子も。

“10代”という、かけがえのない時期を過ごしている群馬の中高生が、意欲としなやかな心を抱き、日々を過ごしていけるにはどうしたらよいのだろうか？

そんな想いをもちた私たちは、今年7月に、創業15周年を迎えるにあたり、「社会に開かれた学びカンファレンス」を6月22日(土)に開催します。

群馬や、教育に携わる一人ひとりが、日々考えていること、知りたいこと、学びたいことを言葉にしながら、みんなで探究していく日です。

参加者のみなさんと、ともに考え、ともに学ぶことを通じて、ここ群馬で実現していきたいこれからの教育の未来を、描いていきたいと思います。

さあ、「社会に開かれた学びカンファレンス」の開催です。